

- gropila sauteri* Found in Lake Yamana, Bul. Fac. Fish., Nagasaki Univ.5  
 齊藤省吾・安原健允(1959) 阿寒湖マリモ、山中湖のフジマリモに関する二三の考察. 青葉学園生物学教室報告 1-10.
- Y. SAKAI (1964) The Species of *Cladophora* from Japan and its Vicinity. Sci. Papers Inst. Algo. Res. Fac. Sci., Hokkaido Univ. V(1) : 1-140.
- 坂井与志雄(1980) 河口湖産フジマリモについて. 藻類 28(1): 47-50.
- 杉浦忠睦(1956) フジマリモの発見. 採集と飼育 18(9) : 258-259.
- (1957) 山中湖産フジマリモ. 生物研究 3(1).
- (1988) 山中湖村の自然. 山中湖村教育委員会.
- 安原健允・新崎盛敏(1975) マリモの団塊形成と繁殖について. 日大文理(三島)研究年報 24:27-34.
- ・————(1976) 日本に産するマリモの研究 VII 山中湖産フジマリモについて. 日大文理(三島)研究年報 25 : 9-14.
- 安原健允(1978) マリモ. 世界の植物 113 : 2657, 朝日新聞社.
- ・新崎盛敏(1980) 日本に産するマリモの研究 IX 河口湖産および再び山中湖産フジマリモについて. 日大文理(三島)研究年報 28:101-112.
- (1984) 日本産マリモの研究. 日大生活科学研究報告 7 : 81-158.
- (1986) 富士五湖の生物-山中湖の水生生物. 日大文理(三島)研究年報 35 : 121-130.
- (1987) 日本産マリモ総説. 日本の生物 1(9) : 48-56.
- 藪 熙(1975) マリモの遊走細胞形成. 藻類 23(1).

○岩槻邦男編著『滅びゆく日本の植物50種』(築地書館, 1992年11月, 212p., 2060円)

動物・植物のレッドデータブックの出版や地球サミットで生物学的多様性の保全が議題に取り上げられたことを契機に、絶滅危惧種に対する社会的関心が高まっている。それに呼応するように、この問題を扱った一般書の出版が昨年から今年にかけていくつか計画されている。本書もその一つで「絶滅の危機に瀕する日本の植物」という編者の総説の後、50種の絶滅危惧種を取り上げ、イラストと解説がある。どのような原因で種の存続が脅かされているのかがよくわかる。

水草ではデンジソウ、ミクリ、ヒメイバラモ、カワゴケソウ、オニバス、フサタヌキモの6種が取り上げられている。巻末には「日本版レッドデータブック植物編」にリストされた全種が一覧表として挙げられているので、同書をお持ちでない方には参考になる。

○『小田の池自然環境学術調査報告書』(大分県保健環境部発行, 1992年3月, 136p.)

小田の池は大分県湯布院町にある高原の自然湖沼である。九州では珍しいミツガシワ(日本の南限)やコタヌキモなどが自生する。すぐれた自然環境が維持され、周辺の湿原とともに学術的にも貴重な自然となっている。しかし、ここにも開発の波が押し寄せようとしている。今回の報告は、このような実情も鑑みて実施されたもので、気象や地形から生物相全般におよぶ総合的なものである。植物は本会会員の荒生正憲氏らが中心となって調査を進められ、その結果は「小田の池及び周辺地域の植生とフロラ」と題する30ページあまりの報告にまとめられている。群落の分類、植生図、植物目録などから

(角野康郎)